

15番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とウエルビーイング（健康経営）の実現について</p> <p>【質問趣旨】 公職現場環境について2016年3月、2020年3月定例会で「テレワーク導入」「フレックスタイム制」「食事スペース（フリースペース）」等、質問している。その間、コロナ感染症をきっかけに働き方も変化した。さらに少子高齢化が加速した今、限られた人員体制の中で、職員一人の負担が増えていく可能性が否めない。公職現場である自治体も業務の効率化や市民サービスの向上をめざした新たな転換期ではないだろうか。 → 続く</p>	<p>(1) 職務環境について</p> <p>(2) 健康確保措置について</p> <p>(3) 働きやすい職務環境について</p> <p>(4) 有給休暇制度等の取得状況と今後の休暇制度の拡充について</p>	<p>① 過去2回の質問後、どう変わったのか。「テレワーク導入」「フレックスタイム制」「食事スペース（フリースペース）」等の現状と課題について伺う。</p> <p>① 職務環境や業務上の人間関係における問題は、職員の心身を損ない、近年増加の一途であるメンタルヘルス不調による長期間の休務に繋がる。本市におけるメンタルヘルス不調による休務者の現状を踏まえ、職員の安全衛生に関する健康確保措置について現状と課題を伺う。</p> <p>① ワーク・ライフ・バランス、ウエルビーイングの視点から、働きやすい職務環境について、市の考え方を伺う。</p> <p>② 具体的な取り組みや独自の制度について現状を伺う。</p> <p>① 有給休暇制度の取得状況について伺う。</p> <p>② その他特別休暇（有給）制度について、制度概要と取得状況を伺う。</p> <p>③ 定年延長となり、現在ある「配偶者の出産休暇（2日）」、「配偶者出産時の子の養育休暇（5日）」、「子の看護休暇（5日）」、「家族介護休暇（10日）」等、今後の休暇制度の拡充（孫等を対象とした休暇を含む）についての考えを伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15 番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>→</p> <p>自治体DXも加速的に進み、定年延長により勤続年数は今後増えていくことになる。誰一人取り残さない「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とウェルビーイング（健康経営）の実現」をめざして質問する。</p> <p>(*1) 庁内副業制度等：業務時間の20%を上限として、担当業務以外の業務（他課含む）へ従事することを認めること。職員のスキルアップや職員同士の新たな絆を広げ、個々の意欲や希望を尊重する組織体制を構築し、職員の主体的なキャリア形成の支援を目指している制度。</p>	<p>(5) 週休3日制の試行について</p> <p>(6) フリーアドレス・フリースペースの導入等について</p> <p>(7) 新たな人材育成制度（庁内副業制度等(*1))について</p>	<p>① 週休3日制は、フレックスタイム制に基づき、1～4週間単位、総労働時間を変えずに、勤務日の労働時間を増やし、土日以外に週1日休日を設定する仕組みである。こうした制度についてどのような認識か。見解を伺う。</p> <p>② 週休3日制で懸念するのは、「自治体の規模によって業務が回らない可能性がある」「1日の労働時間が増える」「負担が大きくなり作業効率が下がる」「今のさまざまな仕事が減ることはない」「そう簡単にはいかない」との声が上がっている。一方で、試行的に導入し、将来を見据え、本格的に導入する自治体もある。週休3日制の試行についてどのような認識か。見解を伺う。</p> <p>① 自治体DXが進み、庁舎における執務空間も従来の働き方から大きく変化している。「フリーアドレス化」について導入の考えはあるのか伺う。</p> <p>② まずは本庁舎に、コワーキングスペースのように職員がフリーで使えるオープンな交流スペース「フリースペースの活用」について導入の考えはあるのか伺う。</p> <p>① 市民サービスの向上や組織の活性化をめざした、市全体に関わる業務等、様々な部署の職員が希望して参加する「プロジェクトチーム制度」の導入について伺う。</p> <p>② 愛知県内では刈谷市が「庁内副業制度」として試行的に実施している。本市においてもこうした制度の創設を期待したい。こうした制度について認識を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>2. 人と動物が共生できるまちづくりについて</p> <p>【質問趣旨】 飼い主のいない猫（以下野良猫とする）は、もともとは迷子になってしまった猫や人間の勝手な都合で捨てられた猫とその子孫である。TNR活動・地域猫活動(*2)、動物の命を守ることをはじめ、地域のトラブル削減や生活環境の向上を目指し、本来、猫に困っている人のための猫対策という考え方が基本にある。地域全体でそれを理解し「これ以上不幸な野良猫を地域で増やさない」ため、その一助が避妊去勢手術費補助の制度等である。 →続く</p>	<p>(1) 野良猫の現状について</p> <p>(2) TNR活動・地域猫活動支援について</p> <p>(3) 猫の避妊去勢手術費補助制度等の導入について</p>	<p>① 野良猫等に関する、苦情・相談の状況とその対応等について伺う。</p> <p>① 活動している団体（個人を含む）について、どの程度把握しているのか伺う。</p> <p>② 野良猫問題は地域の環境問題である。人々が気持ちよく過ごせるためにTNR活動・地域猫活動の解決方法がある。地域住民に対し、活動の理解を広げる取り組みについて伺う。</p> <p>① 先の一般質問では、「公益財団法人動物基金の不妊手術事業をはじめとした活動団体を支援する制度の活用等、地域猫活動等を支援するための手法の検討を進めていく」との答弁であった。具体的にどう検討は進んだのか伺う。</p> <p>② 愛知県内では54市町村の中で26市町村が猫の避妊去勢手術費補助の制度を導入。特に瀬戸市に隣接する自治体では全て実施している。財源確保が課題ならば、その方法として、ふるさと納税の仕組みを活用したクラウドファンディング（寄付の募集）の導入を隣接する尾張旭市のように進めてはどうか。見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>人と動物が共生できるまちづくりを目指し、2023年3月定例会に引き続き質問する。</p> <p>(*3) 参考資料添付： 「始めませんか？地域で猫対策～人と猫が調和する環境づくりのために～」 (大府市役所環境課・おおぶ地域ねこの会)</p>	<p>(*2) TNR活動・地域猫活動： TNR活動とは、Trap（捕獲）Neutre（避妊去勢手術をする）Return（元の場所に戻す）の頭文字で野良猫に手術を施し、一代限りの命を全うさせること。 地域猫活動とは、TNR活動だけでは野良猫を減らすことはできない。餌やりや清掃等のルールを決めて地域住民と一緒に行うマネジメント管理が重要。猫をめぐる対立や環境被害の解消。猫を適正に管理しながら共生していくことが目的。</p>	<p>③ 地域のご理解とご協力がなければ、避妊去勢手術費補助金だけでは、TNR活動・地域猫活動は進まない。そこには、行政発の地域猫活動等の理解のための普及啓発(*3)が必要であり、行政とボランティア活動団体（個人ボランティアを含む）と地域住民の協働が重要であると考え。行政としての役割をどう考えるのか伺う。</p> <p>④ 今まで質問してきたが、地域住民の理解を広げる取組みや避妊去勢手術費補助の制度がなければ、地域猫活動の進んでいる近隣市にも迷惑をかけることになるのではないかと。早急な、避妊去勢手術費補助の制度の導入実施、地域猫活動等の理解のための普及啓発、TNR活動・地域猫の活動団体（個人を含む）登録の実施、それらの業務を担い、技術的助言ができる専門性のある人員配置等、提案する。市長の考えを伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15 番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>3. 聴覚補助機器等の積極的な活用への支援について</p> <p>【質問趣旨】 社会の高齢化に比例して、難聴の方も年々増加している。難聴は認知症の危険因子の一つと言われており、人や社会とのコミュニケーションを避けがちになり、その後社会的に孤立することも懸念される。近年、この難聴対策として、従来の気導・骨導補聴器では十分な補聴効果が得られない方や、装着そのものが難しい方へ「軟骨伝導」等の新しい技術を用いたイヤホンが開発され選択肢も増えた。</p> <p>そこで、認知症の予防と共に、高齢者の積極的な社会参画を実現するため、質問する。</p>	<p>(1) 加齢性難聴で悩んでいる高齢者について</p> <p>(2) 「軟骨伝導」等の新しい技術を用いたイヤホン等の購入支援について</p> <p>(3) 合理的配慮について</p>	<p>① 加齢性の難聴を抱え、悩んでいる高齢者への支援の取組みについて現状を伺う。</p> <p>② 認知機能の低下やヒアリングフレイル(聞き取る機能の衰え)が進行してしまう。「それほど困っていない」等と耳鼻科を受診しない高齢者は多い。難聴を放置している間に、加齢性難聴は高齢者の3割程度、男性の場合は70歳代では5～6人に一人が日常生活に支障を来すほどの難聴を抱えているとされている。聞こえないからと大きな音で聴き続けるとさらに難聴は悪化する。こうしたヒアリングフレイル予防の啓発活動と医師や専門家とつなげる聴力検査の受診勧奨は重要である。高齢者のフレイル予防として、オーラル(口腔)フレイル予防と同様に、ヒアリングフレイル予防として推進してはどうか。見解を伺う。</p> <p>① 2024年3月定例会では「高齢者施策全般の優先度を慎重に判断し、他市町の先行事例やその効果等を注視して検討していく」としていた。認知症予防、元気な高齢者支援等、高齢者施策全般の優先度は高いと認識するがどうか。保険者機能強化推進交付金等を活用した補聴器(「軟骨伝導」等の新しい技術を用いたイヤホン等)購入支援について見解を伺う。</p> <p>① 耳が聞こえにくい高齢者や難聴者と円滑にコミュニケーションを取れる社会の構築をめざし、まずは市役所の窓口等に、合理的配慮の一貫として、安価で取り扱いやすい「軟骨伝導イヤホン」を試行的に導入してはどうか。見解を伺う。</p>

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
 2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
 3. MS明朝体、12ポイントで記載する。